

コロンフォート[®]内用懸濁液25%

適正使用のお願い

～コロンフォート内用懸濁液25%投与にあたっての留意事項～

コロンフォート内用懸濁液25%（以下、本剤）は、受診者が自宅に持ち帰って食後に服用する硫酸バリウム製剤です。硫酸バリウム製剤では、消化管穿孔などの消化器症状、アナフィラキシーなどの過敏症が報告されていますので、本剤の使用に際してもこれらの症状に留意し、受診者への情報提供とともに、適切な対応をとるようお願いいたします。

消化管穿孔、腹膜炎防止のための対策

大腸CT検査では、前処置として行われる腸管拡張において、腸管内圧上昇やカテーテルによる外傷に起因してまれに消化管穿孔を起こすことが報告されています。また、大腸CT検査中に異常・症状がみられなかった受診者において、検査後の専門医の診断（読影）時に画像より穿孔が確認された例も報告されています。このような受診者では、本剤の適用によりバリウム腹膜炎を引き起こすおそれがありますので、検査時の送気等の処置は慎重に実施していただくとともに、以下の事項についてご注意をお願いします。

- 1 穿孔リスクの高い受診者をあらかじめスクリーニングしてください。
検査前の問診等で、現在の消化器症状の有無や疾患の既往を確認してください。
- 2 検査中に腹痛等の消化器症状がみられた場合は、直ちに検査を中止し、画像にて穿孔の有無を確認し、必要に応じ適切な処置を行ってください。
- 3 帰宅後に腹痛等の消化器症状がみられた場合は、直ちに医療機関を受診するよう受診者にご指導ください。
症状が軽微な場合でも、適切な処置が必要な場合もありますので、必ず受診するよう受診者にご指導ください。

過敏症（アナフィラキシーなど）防止のための対策

本剤服用後に過敏症症状が発現した場合には、直ちに医療機関を受診するよう受診者にご指導ください。

なお、指導に際しましては、患者向け情報提供資料等による注意喚起をお願いします。

～よりよい検査・診断のための服薬指導のポイント～

ポイント1：緩下剤等の併用

本剤は、大腸CT撮影時の腸管内の残渣が本剤により標識されていることで効果を発揮するため、検査前に本剤投与前の非標識の残渣を排泄する必要があります。そのため、受診者の日常の排便習慣に応じて緩下剤等を併用してください。また、硫酸バリウムを速やかに体外に排泄するためにも、緩下剤等の適用が望まれます。なお、非標識便が排泄できないおそれがある患者（腸管蠕動運動が著しく低下している患者；糖尿病の合併症を発症している患者、長期臥床患者、高齢者等）、重度の便秘患者には、本剤を用いた大腸CTの適用の可否を検討してください。

例

- ◎検査前日の夕食後から就寝前の間に緩下剤等（塩類下剤または刺激性下剤等）を服用する
- ◎受診者の日常の排便状況に応じて緩下剤等の服用量を調節する 等

ポイント2：服用のタイミング

本剤は通常、検査4時間前までの食後に服用します。大腸CT検査の時間に応じて、受診者ごとに本剤の服用時期を指導してください。

例

- ◎午前に検査を行う場合：検査前日の朝食後、昼食後、夕食後の3回
- ◎午後に検査を行う場合：検査前日の昼食後、夕食後、検査当日の朝食後の3回

また、本剤は食事由来の消化物（残渣）とよく混和されることが重要です。食後速やかに服用するよう受診者に指導してください。

例

- ◎コロنفォート内用懸濁液25%は、食後速やかに服用してください。

ポイント3：検査前の食事

非消化性の食事由来の残渣は、本剤により標識できないおそれがあるので、検査前の1日～数日間は摂取を控えるよう受診者に指導してください。

例

- ◎検査前の食事は、消化のよいものを食べてください。
- ◎食べてはいけない食材：海藻、きのこ、繊維の多い野菜・果物類など